

■北条時政 武將。源頼朝を預かり、娘政子とその妻となって、鎌倉幕府初代執権となるも、後、政子に幽閉された。

ほうじょうときまさ
・ ・ ・ ・ ・ 1138＝

生。上総介平直方5代の孫で、父は北条四郎大夫時方(時家とする系図もある)。母は伊豆掾伴為房の娘。代々伊豆国田方郡北条(静岡県菰山町)に住し、そこを本拠とする在庁官人とする説もある。

・ ・ ・ ・ ・ 1147＝ 9歳：

保元の乱・ ・ 1156＝18歳：

平治の乱・ ・ 1159＝21歳：平治の乱後、

・ ・ ・ ・ ・ 1160＝22歳：_伊豆国田方郡蛭ヶ小島に流されてきた源頼朝の監視役を、伊東荘の在地領主伊東祐親とともに命ぜられ、

三十三間堂・ 1165＝27歳：

清盛太政大臣 1167＝29歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1170＝32歳：伊豆大島に配流されていた鎮西八郎源為朝征伐に参加したという。

・ ・ ・ ・ ・ 1174＝36歳：

鹿ヶ谷事件・ 1177＝39歳：この頃、時政は京都大番役勤仕のため上洛していたが、

・ ・ ・ ・ ・ 1178＝40歳：この頃、娘政子と流人源頼朝の間に長女(のちの大姫)が生まれていた。このことが平家の耳に入るのを怖れた時政は、政子を山木兼隆に嫁がそうとしたが、政子は熱海の走湯山権現にいた頼朝のもとにのがれ、時政は結局2人の仲を認めざるをえなかったという。

源氏一斉蜂起 1180＝42歳：*頼朝が平氏打倒の兵を挙げるとこれを助け、まず伊豆の目代山木兼隆を討った。しかし相模の石橋山の戦いには敗れて安房に逃れた。ついで頼朝の命を受けて甲斐に赴き、同国の武田信義らを味方につけ、甲斐、信濃の源氏を伴って頼朝の本隊に合流し、駿河の富士川の戦いで平維盛の東征軍を敗走させた。

後鳥羽天皇・ 1183＝45歳：平氏討伐のための西国遠征には加わらず、鎌倉にとどまっていた。

平氏滅亡・ ・ 1185＝47歳：_平氏滅亡後、頼朝・義経兄弟の対立が激化すると、義経を追って上洛、守護・地頭設置の勅許を出させ、京都守護として京都の警備、朝廷との折衝に当たったが、

九条兼実摂政 1186＝48歳：_京都守護を後任の一条能保に託し、鎌倉に帰った。
在京中の時政を九条兼実は“頼朝代官北条丸”と書き、’頼朝妻父、近日珍物歎’と評している(「玉葉」)。
時政は文治年間以降、伊豆、駿河の守護職に在職し、

奥州藤原滅亡 1189＝51歳：伊豆国北条のうちに奥州藤原氏征伐を祈念して願成就院建立を始め、頼朝に従って下向した。

鎌倉幕府始・ 1192＝54歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1193＝55歳：源頼朝の命により、駿河国の狩猟場整備のため鎌倉を出発した。

源頼朝没・ ・ 1199＝61歳：*頼朝が死去して子の頼家が継ぐと、頼家の外戚である比企能員が勢力をもつようになった。時政らはこれに対抗し、頼家がみずから訴訟を裁断するのを停め、時政・義時父子、能員ら13名の有力御家人の合議によることとし、頼家の独裁を抑えた。

梶原景時征討 1200＝62歳：従五位下遠江守に任ぜられ、_将軍の外祖父としてだけではなく、幕府内での地位を固めて行くが、頼家やその外戚である比企能員と対立することも多くなって行く。

・ ・ ・ ・ ・ 1201＝63歳：

執権政治始・ 1203＝65歳：*頼家が病むと、頼家の嫡男一幡に関東28力国の地頭職を、頼家の弟干幡(のちの実朝)に関西38力国の地頭職を相続させるなど、処分を独断で行って能員を挑発し、能員をはじめ比企一族を滅ぼし、頼家の子一幡を殺し、頼家を廃してその弟実朝を将軍に立て、大江広元とともに政所别当(執権)として幕府の実権を握った。時政は後妻牧の方を愛したが、先妻が生んだ政子と義時は、継母と不和であった。

源頼家暗殺・ 1204＝66歳：_後妻牧の方の女婿武藏守平賀朝雅を京都守護とし、

新古今集・ ・ 1205＝67歳：*牧の方の女婿平賀朝雅が畠山重忠と対立すると、重忠を討った。さらに牧の方と謀って将軍実朝を廃し、朝雅を将軍にしようとしたため、政子、義時に出家させられ(法名明盛)、伊豆に幽閉された(牧氏の変)。

専修念仏禁止 1207＝69歳：願成就院の南傍に塔婆を建立して、供養を行った。

・ ・ ・ ・ ・ 1210＝72歳：

榮西没・ ・ ・ 1215＝77歳：日來わずらっていた腫物のため、_不遇のうちに、没した。